

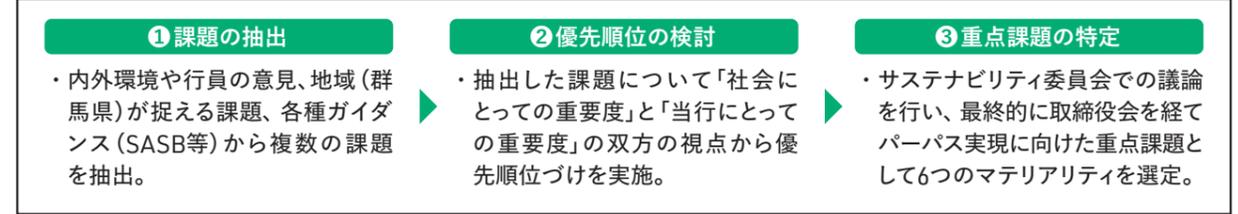
マテリアリティ(パーパス実現に向けた重点課題)と取り組み

当行グループは、2025年4月からスタートした中期経営計画「Growth with “Purpose”」の策定にあたり、マテリアリティを「パーパス実現に向けた重点課題」と定義したうえで、「社会にとっての重要度」と「当行にとっての重要度」の双方の視点から6つのマテリアリティを選定しました。

※当行グループは、「群馬銀行グループサステナビリティ方針」を制定し、マテリアリティおよび取組方針を定めています。

サステナビリティ方針 ▶ P.58

○マテリアリティの特定プロセス



マテリアリティ	機会とリスク	中期経営計画における主な取組み	関連するKPI	関連するSDGs
地域経済の持続的発展	機会 ●お客さまの経営課題の多様化、高度化によるソリューション提供機会の増加・拡大 リスク ●社会・産業構造の変化への対応の遅れによるお客さまの事業停滞・業績悪化や地域経済の低迷	●最適な価値提供を目的としたセグメント戦略に基づく営業体制の再編 ●「つなぐプロセス」を起点としたゴール・ニーズベースの営業活動深化 ●事業承継・脱炭素・人材不足・DXなど地域課題解決に資する営業力強化 ●地域産業の活性化やスタートアップ企業との連携強化 ●自治体や大学など連携協定先との協業による地域課題解決 など	●事業承継課題解決件数 ●ビジネスマッチング件数 ●人材紹介件数 など	
人口減少・少子高齢化への対応	機会 ●人生100年時代に対応する新たな金融商品やサービスの提供機会の増加 リスク ●人口減少・少子高齢化の進展に伴うお客さまの減少 ●各世代の多様化・高度化するニーズに対応できないことによる当行の競争力低下	●個人コンサルティング体制の再編と銀証連携の強化 ●富裕層向けの提案力強化や相続関連業務の強化 ●資産運用立国に向けた投資の裾野拡大とストック収益の増強 ●住宅ローン推進を起点とした資産形成層との取引拡大 ●預金やローン取引拡大に向けたマス層向けマーケティングの高度化 など	●預かり金融資産残高 ●無担保消費者ローン残高 ●相続関連支援件数 など	
DXへの対応	機会 ●デジタル化の進展による新たなニーズへのコンサルティング提供機会の増加 ●非対面チャネルでの新たなお客さまとの接点機会の増加や業務効率化による生産性向上 リスク ●急速に進展するデジタル化社会への対応の遅れによる当行のサービスの競争力低下	●キャッシュレス×情報を起点とした地域エコシステム構築 ●デジタルを活用した顧客接点の強化・チャネル連携 ●行内業務の集中化・事務レスへの取組み ●デジタルマーケティングの強化 ●AIの活用強化 など	●キャッシュレス取扱高 ●アプリ利用者数 ●デジタル人財目標人数 など	
地球環境の保全と創造	機会 ●脱炭素や生物多様性などへの対応を支援するための新たな金融商品やサービスの提供機会の増加 リスク ●自然災害などの発生や各種規制などの強化によるお客さまの事業停滞・業績悪化 ●十分な情報開示を行っていないと判断された場合の当行のレピュテーション低下	●サステナブルファイナンスを軸とした資金提案やソリューション提案 ●脱炭素関連のソリューション/ファイナンスメニューの拡充 ●自然資本・生物多様性など新たな課題への対応 ●ぐんざん財団を通じた環境保全活動支援 など	●サステナブルファイナンス実行額 ●脱炭素化支援件数 ●温室効果ガス排出量 など	
人的資本の充実	機会 ●多様な人材の活躍推進による人材確保や企業風土の醸成、人的資本の最大化 ●人的資本の充実による新たな価値の創造 リスク ●多様な価値観や柔軟な働き方への対応ができていないことによる従業員のモチベーション低下や人材の流出	●経営戦略と連動した人財ポートフォリオ構築 ●ジョブ型人事制度に基づく採用・育成・キャリア支援の実践 ●ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの推進 ●役職員のWell-being向上への取組み など	●中途採用比率 ●女性管理職比率 ●男性育休等平均取得日数 など	
確固たるガバナンスの構築	機会 ●意思決定の迅速化と組織効率の向上などによる収益基盤の多様化・強化 ●透明性と信頼性の向上による顧客満足度の向上 リスク ●ガバナンス不全による当行の社会的信用の失墜や業績悪化 ●意思決定の遅延と資本効率の低下	●経営戦略と連動した組織設計やグループガバナンスの強化 ●サイバーセキュリティの強化 ●オペレーショナル・レジリエンス確保に向けた取組み ●コンプライアンス最優先の業務運営 ●ステークホルダーとのコミュニケーションの充実 など	—	